



# EPO九州オフィス案内

## ● 環境省九州地方環境パートナーシップオフィス EPO九州とは



今日の環境問題は、個々の取組では解決しにくい複合的な要因を抱えています。このため、様々な分野の人や組織が協力していく必要があります。EPO九州は、市民、行政、NPO、企業などの相互の連携・協働による環境保全活動を支援し、以下の面から「持続可能な九州づくり」を目指します。

- 「協働・パートナーシップ」…環境保全に取組む主体のパートナーシップ形成を支援します。
  - 「ESD・環境教育」…地域におけるESD・環境教育の普及・啓発や取組の促進を図ります。
  - 「情報発信」…九州・沖縄の環境情報を収集するとともに中間支援プロセスを発信します。
- このほか、各種環境活動に関するご相談も随時受け付けています。

## ● 地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)の登録を募集しています

地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取り組んでいらっしゃる学校現場・社会教育の現場等の皆様へ、ESDを支援・推進する団体として、「地域ESD活動推進拠点(以下「地域ESD拠点」)のご登録を募っております。

九州地方ESD活動支援センターでは、ご登録いただいた団体をパートナーとして、当センターや他の地域ESD拠点と連携し、各地域・各分野で取り組まれるESDの支援やこれからESD活動を始められる主体への支援を「ESD推進ネットワーク」の中で果たしていきます。ご関心をお持ちの団体様は、まずは下記へご連絡ください。

※ESD (Education for Susutainaobl Developpante) とは、持続可能な開発のための人と地域を育てる教育をさします。

## ● 環境活動情報をご紹介します

全国EPOネットワークで推進している「協働取組」や「ESD取組」などの事例集をはじめ、環境省関連資料など、各種パンフレット等を配布していますので、ぜひお立ち寄りください。



また、みなさまの団体情報や活動情報などの環境活動情報を、EPO九州までぜひお寄せください。ご提供いただいた情報は、ホームページへの掲載、オフィス内での掲示などに紹介させていただきます。お気軽にお問合せください!

## ● メールマガジン「えぼねっと九州」を配信しています

EPO九州では、メールマガジン発行し、環境省の情報や公募情報、九州・沖縄の環境情報などタイムリーなお知らせを毎月ご紹介しています! 持続可能な社会づくりに向けて、まずは地域や国の取組を知るところから始めてみませんか? みなさまのご登録をお待ちしています! (登録無料)

登録方法: 下記アドレスまたは右QRコードのリンク先「メルマガ登録フォーム」に、メールアドレス(パソコン・携帯いずれも可)を入力し送信してください。リンク先にて、バックナンバーもご紹介!



EPO九州メールマガジン

<http://epo-kyushu.jp/about/magazine.html>

# OFFICE

九州地方環境パートナーシップ オフィス(EPO九州)	九州地方ESD活動支援センター (九州ESDセンター)
TEL 096-312-1884	TEL 096-223-7422
E-mail info@epo-kyushu.jp	E-mail contact@kyushu-esdcenter.jp
URL https://epo-kyushu.jp/	URL http://kyushu.esdcenter.jp/

FAX 096-312-1894 (EPO九州・九州ESDセンター共通)

業務時間 10:00~19:00 (火~土曜日)

休業日 日・月曜日、祝日、年末年始、熊本市国際交流会館休館日。(ただし、臨時休業する場合があります。)

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18 熊本市国際交流会館2F



# えぼ九州だより



- もくじ
- 巻頭メッセージ 石丸 哲史 氏
  - 九州地方ESD活動支援センターの開設
  - 地域ぐるみのESD推進に向けて
  - 協働取組加速化事業
  - 始めよう! SDGsの推進
  - Green Gift 地球元気プログラム
  - 九州地方環境事務所からのお知らせ

## 九州地方環境 パートナーシップオフィス EPO九州 ニュースレター

2018年 発行



vol.14

## 巻頭メッセージ 「ESD活動支援センターに期待すること」

EPO九州運営委員  
九州ESDセンター企画運営委員長

いし まる てつ じ  
**石丸 哲史氏**  
(国立大学法人 福岡教育大学 教授)



### ● なぜ、今ESDなのか？

「持続可能な経営」や「持続可能な制度」など、「持続可能」ということが今や広く用いられるようになってきました。持続可能な社会の構築や持続可能な発展をめざす必要が生じてきたのは、「持続不可能」な状況や状態がさまざまな場面で認識されるようになったからでしょう。予測困難な時代に入らざるを得ない、これまで続けてきたのだから、これからも続いていく」という暗黙の前提があったように思います。しかし、今日、この考えに多くの人が疑問を抱くようになってきました。

変わるはずはないと思われてきた自然環境は人類の時間軸をもってしても変化し、人口減少下にある我が国では地方は衰退し、海外に目を転じるとさまざまな国際問題が顕著になってきています。「このままでは…」という意識は高まるはずで、私たちは持続不可能な状況・状態に気づくことができました。これは幸いなことかもしれません。このことがESDを生起させたからです。

### ● ESDの嚆矢 (物事のはじまり)

#### — 持続不可能な状況に気づくかどうか —

ESDを進めるためには、まず、持続不可能な場面に気づく気がつかないかです。次に、この持続不可能なことが問題であると感じるか。そして、どうすればこの問題を解決できるだろうかという課題意識を抱くか抱かないか。さらに、この課題解決の方法を思い浮かべないか。最後に、解決に向けてやるか、やらないかであり、この行為に向かうためには、相当の知識が必要です。まず、環境問題や国際問題など、問題自体の理解とその解決に向けて必要となる「内容知」です。そして、問題解決に向かう際に必要となるクリティカル (批判的) な思考方法やコミュニケーション能力などの「方法知」です。いずれにしても、持続可能な社会を創るためには学ぶ必要があるのです。

昨年、小学校と中学校、そして今年には高等学校の新学期指導要領が告示されました。この学習指導要領には前文が設けられ、「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社

会の創り手となることができるようにすることが求められる。」とあり、持続可能な社会を創っていく必要があることが明記されました。

したがって、持続可能性を追求しその方途を追求するためには、すべての人間は学ぶ必要があります。そのためには、前記のような学校教育だけでなく、社会教育や生涯教育としてもESDが重要になってきます。なぜなら、持続可能な社会を創るためには、卒業した後も、数十年経っても、持続可能性を追求する姿勢が求められるからです。在学中の態度だけではなく、生涯を通じて一貫した姿勢が求められるのです。

### ● かかわり、つながり、むすびつき

以上のようなESDの使命を考えると、このような広範な活動をサポートする機関や組織が必要となってきます。そこで、この役割をESD活動支援センターに委ねたいと思います。ESDの展開で必要とされるものは、たとえば、自然環境と人間活動との「かかわり」を追究することによって両者の「つながり」を理解し、持続可能な「むすびつき」を追求する。持続可能な社会創造のためにあらゆる主体との良好な関係を構築する。こういったことに努めている主体は多く存在するはずで、これらをいかにむすびつけていくか、活動を支援していくかがセンターの役割だと思われます。

九州・沖縄地方には、多様な自然環境とこれを基盤とした多様な文化が共存しています。また、多くの離島を抱え、島嶼地域には自然環境と人間活動との関係が明瞭にとらえることができます。こういった地域特性に鑑みると、九州地方ESD活動支援センターの役割は大きく、これからの取組にも大いに期待を寄せています。



石丸教授近影

## 九州地方ESD活動支援センターの開設

### ■ ESD活動支援センターとは

ESD活動支援センターは「国連ESDの10年」の後継プログラムである「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム(GAP)」を受け、日本でも引き続きESDを一層推進すべく策定された「我が国におけるESDに関するグローバル・アクション・プログラム実施計画(ESD国内実施計画)」に位置づけられる、ESD推進に向けた支援活動を行います。

平成28年4月に東京都渋谷区に開設された ESD活動支援センター(全国センター)は、ESD推進ネットワークの全国的なハブとなりESD活動の支援を行うほか、地方ESD活動支援センターやESDの推進に関心を持つ団体と協働・連携し、活動を展開しています。

※ホームページ <http://esdcenter.jp/>

### ■ 九州地方ESD活動支援センターとは

九州・沖縄地域におけるESD推進ネットワークの形成を目的に、平成29年7月に、環境省九州地方環境事務所により、九州地方ESD活動支援センターが設置され、EPO九州がその機能を担うこととなりました。

EPO九州において、これまで培ってきたネットワークや協働取組みにおける伴走支援や拠点支援、相談対応や場づくりの経験を活かしながら「地域ぐるみのESD推進」に向けて、ESD活動の支援やESD推進ネットワークの形成等に取組みます。

### ● 地域ぐるみのESD活動を推進する九州地方ESD活動支援センターの4つのはたらき

- ESD活動を支援する情報共有機能
  - 政府のESD関連施策や地域のESD活動の情報、ESD実践のためのプログラム、資料等の提供等
- 現場のニーズを反映したESD活動の支援機能
  - 支援方策に関する調査研究
  - 地方センターと連携した地域ESD拠点の形成、活動支援等
- ESD活動のネットワークの形成
  - ESD実践の学びあいの場の促進機能
  - 国内外の交流促進、相互連携活動の推進等
- 人材育成機能
  - コーディネーター、指導者の育成や活躍の場づくり等



### ● 地域ESD活動推進拠点 (地域ESD拠点) 登録制度について

学校教育や社会教育の現場では、さまざまな主体が地域や社会の課題解決に関する学びや活動に取組まれていますが、ESD活動支援センターでは、現場のESDを支援・推進する役割を担う組織・団体を「ESD推進ネットワーク」における「地域ESD活動推進拠点(地域ESD拠点)」と考え、登録制度をスタートさせました。

### ● 地域ESD拠点として登録することにより

全国規模で進められているESD推進ネットワークの一員としてESDを支援・推進していることを活動地域内外のESD推進者に対して明確に示すことができるほか、メーリングリスト等を通じてESD関連情報をより早く入手できるようになります。

### 九州・沖縄地域における地域拠点登録リスト (平成30年3月31日時点)

拠点名	県
鹿島市建設環境部 ラムサール条約推進室	佐賀県
国立大学法人 福岡教育大学	福岡県
大牟田市教育委員会	福岡県
北九州ESD協議会	福岡県
公益財団法人肥後の水とみどりの愛護基金	熊本県
一般社団法人環不知火プランニング	熊本県

# 地域ぐるみの ESD推進に向けて

## ● 地域ESD学びあいフォーラム in 大牟田

- テーマ** 『持続可能な地域づくりを担う人材育成に向けて』
- 開催日** 平成29年8月23日(水)
- 会場** ホテルニューガイア オームガーデン(福岡県大牟田市)
- 主催** 九州地方ESD活動支援センター
- 共催** 大牟田市教育委員会

本フォーラムは毎年、持続可能な地域づくりに向けた人づくりについて、活動団体と地域の方々語りあう場として開催していますが、今回は「ユネスコスクール・ESD研修会」(主催:大牟田市教育委員会)の分科会の一つとして行われました。

ESD実践拠点支援事業の拠点として、地域ぐるみでESD推進に取り組んでいる北九州市、水俣市、日南市の3つの拠点における活動紹介が行われました。

### 【活動拠点】北九州まなびとESDステーションでの取組 熊本県環境センター等と連携した取組 日南市子育て支援センター「ことごと」での取組

その後、有識者の方より発表に対して、「自分を発見するプロセスの大切さ」、「地域の人の思いに共感する力」、「主体的な学び」、「ESDは豊かさとは何かを問いつけるプロセス」というキーワードをご紹介いただき、取組に対する期待やアドバイスをいただきました。今回は、学校の先生などの参加が多く、地域でのESD実践者と教育関係者が交流し、学びあう機会となりました。



活動紹介の様子



有識者による助言

## ● 沖縄地域ESD交流会

- 開催日** 平成30年2月9日(金)
- 会場** 沖縄県地域環境センター(沖縄県沖縄市)
- 主催** 九州地方ESD活動支援センター

沖縄地域のESD推進ネットワークの構築を目的として、学校関係者、活動団体、自治体、有識者などによる交流会を開催しました。まずはじめに、世界的なSDGsの潮流や近年のESDの動向に関する講義が行われ、SDGsとESDの概念や特長への理解を深めました。

続いて、ユネスコスクール加盟校である北谷町立北谷中学校と金武町立中川小学校でのESD活動の活動紹介、およびユネスコスクールへの加盟を目指すKBC学園未来高等学校での活動紹介が行われました。

北谷町立北谷中学校では地元漁協と協力し、サンゴの苗を育て海へ戻す活動のほか、沖縄の特色を活かし平和学習を積極的に実施しています。また企業のCSR活動にも参加しています。

金武町立中川小学校は、少人数学校の特性を活かし学校教育目標にESDを取り入れています。これまでの活動をESDとして捉えなおし、環境・国際・平和、キャリア教育をつなげた教育構想が述べられました。

KBC学園未来高等学校はダブルスクール制を採用し、防災防災・平和学習・国際理解・地域理解と貢献・主権者教育と多彩なカリキュラムでESDへの取組が行われていることが発表されました。

交流会の締めくくりとして「地域と学校が連携して活動するために必要なものは何か?」をテーマに意見交換ワークショップを行いました。参加者からは、日頃のESD実践から得た工夫や課題等についての意見があり、また支援のあり方や要望について、活発な議論がなされました。意見交換をとおして、各主体がどのような役割を沖縄地域のESD活発化のために果たしていけば良いのか、アイデアの共有を行いました。

ESDの要素が豊富な沖縄県において、各々がどのように持続可能な地域づくりに向けて取組むべきか、大きなヒントを得ることができた交流会となりました。



意見交換の様子



ワークショップの様子

## ● 繋げよう九州! 広げよう「ESDの輪」!!

- インタビュー** 大牟田市教育委員会 教育長 **安田 昌則** さん



九州地方ESD活動支援センターの企画運営委員として、センターの設置準備検討より、ご協力をいただいている安田教育長に、全市的なユネスコスクールの取組のねらいや今後の展開などについて、お話をうかがいました。

平成9年に三池炭鉱が閉山し、大牟田市では人口減少や高齢化が進行し、どうやって持続可能なまちを作っていくのか考えた結果、大牟田の未来を担う子どもたちを育てていくことが重要だと思ったことが、ユネスコスクールへの加盟を検討するきっかけでした。

ユネスコスクールやESDについて勉強していく中で、いままで自分たちが取組んできたことが、実はESDの理念や活動に合致していたということに気づき、平成22年に加盟に向けた取組がスタート。校長会・教頭会のみなさんから、全校で取組もうという方向性をいただき、その年の内にユネスコスクールへの申請、平成24年1月17日に市内の全34校(当時)が、ユネスコスクールに加盟することができました。

私たちは、多様な見方や考え方ができる子どもたち、そして主体的に行動できる子どもたちを育てていきたいと考えています。次の学習指導要領の柱となるアクティブラーニングといわれている、主体的・対話的で深い学びは、まさにESDの姿そのものだと思います。今、大牟田で行っているユネスコスクールの取組をとおして、求められている学びが達成できると考えています。

うれしいことに、子どもたちが主体的に行動する姿が見られるようになりました。今までとは違った視点で地域を見て、発見し、自分なりに何ができるか考えて行動し、自ら関わっていくことができる子どもたちが少しずつ増えてきました。同時に、地域の人々が学校に関わる機会も増加しました。ESDを進め、学校にとっても地域にとっても良いという活動となることで、広がりや継続性が生まれてきます。お互いにそれぞれの課題を解決し、お互いが成果を得るということは、ESDらしい取組だと思えます。

このように、学校から地域へとつながりの場が広がっていくことが、まさに私たちが考えている大牟田のまちづくりの姿です。



## ● 島にまなぶ持続可能な地域づくり交流フォーラム

- 開催日** 平成30年3月24日(土)
- 会場** 福岡県中小企業振興センター(福岡県福岡市)
- 主催** 九州地方ESD活動支援センター

九州・沖縄地方は、数多くの島々が連なる地域で、島ごとに独自の自然・文化・歴史があり、多様性に富んだ環境を有しています。島しょ地域において、教育活動、環境保全活動、ツーリズム等に取組む組織・団体が、活動地域や活動分野を超えて交流し、持続可能な地域づくりに向けた活動を共有することを目的に、交流フォーラムを開催しました。

ESDや島のくらし・文化に関する話題提供の後、対馬、五島、奄美大島、石垣島の5つの地域より、教育関係者、NPO、観光事業者、ビジターセンターなど多様な立場の方々に登壇いただき、持続可能な地域づくりの視点から、それぞれの島での活動をご紹介いただきました。

対馬では小中学校等におけるESD活動の取組として、ツシヤマネコや海岸漂着ゴミなどをテーマにした学習活動の紹介、石垣島ではNPOによるサンゴ学習やグリーンベルト植栽など自然や環境課題を題材にした体験活動の紹介がありました。また、奄美大島でのノネコ問題の解決を目標とした活動や鑑瀬ビジターセンター(五島)での自然体験活動、甌島のツーリズムによる地域活性化の取組などの紹介が行われました。

島ごとに自然環境や地域課題は異なるものの、島という限定された環境ならではの共通の課題やテーマもあり、島という視点で課題意識を共有することで、島固有の地域資源や自然環境を守りながら、活用していくための手がかりを共有する機会となりました。

- 各島からの情報提供テーマ**
  - 島の環境保全 【奄美大島】一般社団法人奄美猫部
  - 島のツーリズム 【五島】鑑瀬ビジターセンター
  - 島での学び・教育活動 【対馬】対馬市教育委員会
  - 【石垣島】NPO法人夏花
  - 【甌島】こしきツアーズ



日本全国「500万1日本とその周辺」(国土地理院、http://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOU/iku/nihonzenu.html)をもとに作成



フォーラムの様子

# ESD推進のための 実践拠点支援



環境省では、ESDや環境教育に取組む学習センターや社会教育施設などの地域拠点におけるESDの取組強化やネットワーク形成を推進することを目的として、平成28年度より「ESD実践拠点支援事業」に取組んでいます。今年度も引き続き、北九州まなびとESDステーション（福岡県）、熊本県環境センター（水俣市）、日南市子育て支援センター（宮崎県）の3つの拠点を対象に、プログラム開発や人材育成、ネットワーク形成等の取組支援を行いました。



環境省ESDキャラクター「はくくん」  
文部科学省ESDクエスト

## ● 拠点の概要

### ● 北九州まなびとESDステーション（福岡県北九州市）

北九州の全10大学と地域社会が連携し、実践活動を通じて持続可能な地域社会の担い手を育成するプロジェクト型の拠点です。



北九州まなびとESDステーション

### ● 熊本県環境センター（熊本県水俣市）

持続可能な社会について正しい理解と認識を深め、環境に優しい行動を推進していくための「環境学習」「環境情報提供」の拠点として、水俣市に設置されています。



熊本県環境センター

### ● 日南市子育て支援センター（宮崎県日南市）

子育て支援の拠点として、親子で自由に遊ぶ交流の場の提供や子育て相談、育児に関する講座の開催などを行っています。内装には日南市の特産である鉄肥杉（おびすぎ）がふんだんに使われています。



日南市子育て支援センター



## ● 繋げよう九州！ 広げよう「木育の輪」！！

インタビュー みやざきアートセンター 緒方 由紀子 さん



宮崎では、日南市の子育て支援センター「ことごと」を通じて、宮崎の鉄肥杉を用い高校生が子ども用おもちゃを提案する「高校生木育デザインプロジェクト」が行われています。その活動を支えている「高校生木育デザインプロジェクト連絡協議会」のメンバー、みやざきアートセンターの緒方由紀子さんに協議会設立の経緯やプロジェクトへの思いをうかがいました。

みやざきアートセンターでは教育普及課に所属し、子どもたちへの教育の一環として木育事業も担当しています。宮崎県は杉の生産高が日本一。しかしながら、地域の循環資源である木材について、またそれを扱う林業について知る機会がありません。まずは地域の財産を知ってもらい、また、その素材を「デザイン」の力で世の中に出していく、ということ学ぶことで、将来を担う高校生にとって、「高校生木育デザインプロジェクト」は貴重な経験になるのでは、と思っています。

宮崎は林業が盛んな県であり木育には以前から関心があり、宮崎県、宮崎県森林林業協会、みやざき木づかい県民会議の3者が協力し、「木育サポーター」を育成したり、「木育デザイン協議会」を作って勉強会をし「木育かわら版」の発行をしたりしています。このようなベースがあり、高校生がスムーズな活動が出来るよう「高校生木育デザインプロジェクト連絡協議会」が作られ、県の担当部局や森林林業協会に加盟の地場産業の方々、木育サポーターとなられた一般市民ボランティアなど幅広い方が参加されています。

私は、主に学校側とのスケジュール調整、連絡網作成、協議会の企画・場の設定など、調整業務をしているのですが、生徒たちは、普段は一人で制作していることが多いようです。この活動では、個人ではなくチームで意見を出し合うことから始まりますので、まず意見をまとめる、まとめたものをカタチにしていく、という一連の作業をとおして、人と協力する、というコミュニケーション能力を高めているように感じます。また、プレゼンテーションをとおし、他のチームの良い点を見ることがお互いの学び合いになっています。学校側からは、高校生が地域や社会と触れ合う機会が少ない、地域や企業にとっては高校生と接する機会が少ないという声を耳にしています。このESD拠点支援事業をとおして、お互いの悩みを解決できるきっかけになっていると感じます。

今後、彼らには、自分が育った場所の事を知り、誇りに思い、帰る場所があることを感じ、どんな職業についても自分が欠かせない存在であることを信じて頑張ってもらいたいと思っています。アートセンターでは、今後も、このように高校生に活躍してもらえるような場を設けていけたらと考えています。

## ● 若者による地域活性化や課題解決に向けたアクションをサポート

### ● 拠点 北九州まなびとESDステーション（福岡県北九州市）

#### ■ 主な取組

- 高校生を対象とした「マイプロジェクト」に大学生の参加枠を設け、自分の問題意識にもとづいた課題解決型プロジェクトの実践を支援。
- 高校生・大学生の活動を支援する社会人メンターを募集し、学生の活動を定期的にフォローアップ。

#### ■ 大学生のアクション

- 地元の空き家をリノベーションし、人がつながる居場所づくりに挑戦。
- サークル活動をとおした、カンボジアの子どもたちへの教育支援。
- 古墳をコンセプトにしたカフェを期間限定でオープンさせ、交流の場づくり。

#### ■ 取組の成果や拠点の変化

- 学生の学習意欲やコミュニケーション能力が向上し、自己効力感が高まりました。
- ミーティングや勉強会をとおして、高校生・大学生と社会人の交流が進み、拠点の活動が活発になりました。
- 若者の活動に対する企業の関心が高まり、協賛や協力する企業が増加しました。



活動報告会でのプレゼンテーション



活動報告会の様子

## ● 熊本の5年生全員が水俣で学ぶ地域ぐるみの環境学習プログラム

### ● 拠点 熊本県環境センター（熊本県水俣市）

#### ■ 主な取組

- 水俣病資料館と連携したESDプログラム意見交換会の実施
- ユースによる政策提案ワークショップ
- 水俣学習に取組む学校へのヒアリング
- ESD人材育成に向けたプログラムの検討

#### ■ 取組の成果や拠点の変化

- 関係者の連携が強化され、地域資源を活用したESDプログラムの企画検討が進みました。
- センターによる環境学習プログラムに、ESDの考え方が反映されました。
- 若者を対象としたエコツアーなど、観光と連携した発信が提案されました。
- ヒアリングにより水俣学習の意義が再確認され、環境学習における水俣地域の重要性が明らかになりました。



グループワークの様子



活動報告会の様子

## ● 鉄肥杉でつなぐ子育て支援センターと高校生木育デザインプロジェクト

### ● 拠点 日南市子育て支援センター ことごと（宮崎県日南市）

#### ■ 主な取組

- 高校生への木育プロジェクトとして、ワークショップをとおし、地元の鉄肥杉を使った子どもたちの積木の企画およびプレゼンテーション。
- 幅広い関係者（行政・民間企業・教育関係・NPO）で協議会を作り、高校生の活動を支援。

#### ■ 高校生のアクション

- 日南の木材産業の現場、拠点の視察を経て、子どもたちへの積木の企画プレゼンテーション。
- 協議会メンバーのアドバイス等を受けブラッシュアップし、企画・試作品の成果発表。

#### ■ 取組の成果や拠点の変化

- 地場産業をとおした行政、民間企業、教育界のネットワークができました。
- 高校生に、人とのつながりやアプローチなどへの関心が高まり、キャリア教育に寄与しました。
- 拠点に、地域とつながるノウハウや手法が蓄積されました。
- デザイナーをとおし、函館における大学生・専門学校生対象の活動に波及、「第3回 木育・森音楽会」で紹介されました。



グループワークの様子



活動報告会の様子

# 九州で広がるESD推進ネットワーク

## ● ビジターセンター意見交換会

**開催日** 平成29年12月18日(月)～19日(火)  
**会場** 重富海岸なぎさミュージアム・桜島ビジターセンター(鹿児島県)

九州各地のビジターセンタースタッフを対象に、ESD推進についての周知ならびに連携、博物館等専門機関等との連携についての情報交換・交流の場とすることを目的とし、鹿児島県をフィールドに意見交換会を実施しました。

施設が自治体や学校、地域と連携してどのような取組を行っているかについての情報交換、その後、ビジターセンターでどのようなESD活動ができるのか、また日頃の活動にどのようなESD的な要素があるのかについて共有するワークショップを実施しました。

翌日は、桜島へ渡り桜島ビジターセンターにて、NPO法人桜島ミュージアムより、観光や地域活性化の視点で、力を入れている取組について、運営や今後の展望について取組紹介が語られました。

今回の意見交換会は、九州内のビジターセンター間においてESD活動について情報共有が大きく前進し、活動の大きなヒントが得られた2日間となりました。



ワークショップの様子



意見交換の様子

## ビジターセンターの紹介

ビジターセンターとは、国立公園の主な利用施設のひとつで、地域の自然情報の展示や公園の利用案内を行っています。九州・沖縄管内には、環境省が直轄で管理しているビジターセンターが9箇所あり、その国立公園ならではの自然や文化を紹介しています。また、自然観察会やフィールドワーク、室内でのクラフト活動など、施設ごとにさまざまなプログラムがあり、来館者が直接自然や文化を体験できる機会を提供しています。施設には解説員が常駐し、地域の自然や見どころなどについて案内を行っていますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。



※ビジターセンター等の詳細については、次のURLを参照してください。 <http://kyushu.env.go.jp/link.html>

## ● 2018九州環境教育ミーティング in 熊本

**開催日** 平成30年2月3日(土)～4日(日)  
**会場** 火の国ハイツ(熊本県)

ミーティングでは2日間に渡り「自然災害と生きるための環境教育～経験を学び次世代へ伝える～」をテーマに、2016年4月に発生した熊本地震の現場でどのようなことが起こったのか。また、復興に際して、どのような地域の歩みがあったのか報告されました。

そして、環境教育は災害に備えてどのような役割ができるのかについて、NPO、自治体など多彩な参加者による活発な議論が行われました。



登壇者からの情報提供



参加者によるワークショップの様子

# 地域でのESD・人材育成支援

## ■ 対馬でのESD活動の取組

対馬では、小・中・高等学校でのESD活動の普及・実践を図ることを目的に、自治体・教育委員会・NPO等が協働し、ESD人材育成事業に取組んでおり、8月と1月に学校の先生を主な対象とした研修会が開催されました(主催:ESD人材育成普及実行委員会、対馬市教育委員会)。

### ● 第1回

**開催日** 平成29年8月29日(火)  
**会場** 上対馬総合センター(長崎県対馬市)

対馬市北部の7つの小中学校の先生方が参加し、前年度のESD活動の報告と今年度の活動内容の紹介が行われました。対馬には国の天然記念物に指定されているツシヤママナコをはじめ、希少な動植物が多数生息しています。ツシヤママナコをテーマとしたプログラムでは、対馬野生生物保護センターへの見学などが計画されています。

### ● 第2回

**開催日** 平成30年1月23日(火)  
**会場** 対馬市立巖原北小学校

小中学校、高等学校での8つの実践発表が行われ、先生方を中心に学校教育関係者、行政関係者が参加し、今年度の取組内容や成果等の共有が行われました。

対馬では、国境地域学や海岸漂着ゴミ、ツシヤママナコなど身近な題材をテーマとしたESDの取組が進められています。また、ESDの学習効果を把握するため、学習前後のウェビング図の比較なども行われています。



## ■ 福岡県立城南高等学校でのESD講演会

福岡県立城南高校は文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール(SSH)の指定を受け、平成27年度より科学技術系人材の育成に取組んでいます。

2年生が100程度のテーマに分かれ、グループでの課題研究に取組む中、学校よりESDの理解を深めたいとのご相談をいただきました。

そこで、学校におけるESD専門家として、福岡教育大学の石丸哲史教授をご紹介し、11月の創立記念日にあわせて、全校生徒を対象としたESD講演会が開催されました。

## ● 創立記念式典における講演会

**開催日** 平成29年11月1日(水)  
**会場** 福岡県立城南高等学校(福岡市城南区)

講演は「ESDを正しく理解するために」と題し、海外都市の事例から持続可能な社会についての問題意識を高めるとともに、高校生の目線に立った紹介が行われました。

また、ESDの考え方やテーマ研究への活用について助言をいただきました。

講演後は、教職員を対象とした研修も行い、ESDの考え方をふまえた実践方法や指導方針について意見交換が行われました。



講演会の様子



意見交換会を終えて

## ■ くまもとエコ×ユース ワークショップ

**開催日** 平成29年12月17日(日)  
**会場** 熊本県環境センター、水俣病資料館等

地域の環境政策に、若者の考えやアイデアを出していく政策提案の場として、熊本県環境センターの展示企画についてワークショップを行いました。12名の学生が参加し、まずは水俣病資料館のガイドプログラムを受け、水俣病学習。続いて熊本県環境センターにて施設案内、フィールドワークと環境学習講義を受講。これらのインプットをふまえたワークショップでは、若者目線で施設の展示や学びの場づくり等について、環境イベントボランティア募集やセルフ学習プログラムづくりなどの提案とメッセージを発信してもらいました。



# 地域活性化×環境保全 協働取組加速化事業

## ■ 沖縄での協働取組による環境保全活動

EPO九州では、環境省「地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」に取組みました。公募で採択された団体や協議会が、環境保全の視点に立った地域活性化・地域づくりを協働の考え方を取り入れながら推進・強化するものです。この事業では、環境保全や地域づくりの具体的な事業に取組むための、協議会活動やネットワークの基盤強化に焦点をあて、中長期的に取組を継続させるしくみづくりを支援します。EPO九州では採択された1団体の取組をサポート(伴走支援)しました。



**団体名** NPO法人 おきなわグリーンネットワーク  
**事業名** おきなわ地域「美ら島・美ら海」連携プロジェクト

おきなわグリーンネットワークは、海が汚れる原因の一つである赤土等流出の軽減対策としてグリーンベルトの植栽を行い、持続的な沖縄の海の保全・再生と営農対策の強化に取組んでいる団体で、平成27・28年度に続いて、本事業に採択されました。

今年度の事業では、これまで取組んできた北部地域での活動における協働のノウハウを、農業環境コーディネーターというコアメンバーと協働することで本島内全域に広げ、農家だけでなく、漁協や小学校、地域との協働および行政との横断的な連携をおとして、持続的に取組み、支援する仕組みづくりを実現し、対策の普及・加速化を目指しました。



※グリーンベルト植栽とは、農地からの赤土等の流出を防ぐため、畑の周辺に草木などの植物を帯状に植える活動です。

## ■ 冊子のご紹介

### ● 政策協働の手引き「環境保全からの政策協働ガイド」

本ガイドは、平成25年度からはじまった協働取組加速化事業の5年間にわたる様々な試行錯誤をもとに、その知見をまとめたもので、協働取組を「政策協働」、「マルチステークホルダー・プロセス」、「中間支援機能」の3つの視点から紐解いた手引き書です。事業5年間の知見の蓄積から、行政職員が地域住民やNPO、企業と協働で環境政策をすすめるための要素を抽出し、地域の様々な課題にもアプローチが可能な工夫や考え方を示しました。

### ● 協働ハンドブック3「協働の仕組」

協働ハンドブックの第3弾は「環境課題と地域を見直す取組のプロデュース」を副題として、多様な主体と協働を進めるための工夫や要素をまとめました。関係者どとのように対話し、理解を得て、主体性を高めるかといった重要な要素を、いくつかのステップに分類して実践事例を解説しています。また、九州・沖縄地域での協働事例として、NPO法人くすの木自然館(鹿児島県)の取組が「市域を越えた自治会のパートナーシップと学びの力で湿地の環境保全」と題して掲載されています。

上記の冊子をご覧になりたい場合は、ホームページよりダウンロードいただくか、EPO九州オフィス内にて冊子をお渡ししております。

※ ダウンロード先：  
<http://www.geoc.jp/information/report>



## ● 繋げよう九州! 広げよう「協働の輪」!!

**インタビュー** NPO法人 おきなわグリーンネットワーク 理事長 **西原 隆** さん  
**事業名** おきなわ地域「美ら島・美ら海」連携プロジェクト  
**URL** <http://okinawagreen.net/> **TEL** 098-943-3223  
**住所** 沖縄県那覇市上之屋314-2サンメディアビル3F **FAX** 098-988-0788



本事業の九州・沖縄地域からの採択団体であるNPO法人おきなわグリーンネットワーク。理事長の西原隆さんへのインタビューを掲載します。

聞き手：田中義泰さん(毎日新聞社医療福祉部長・本事業アドバイザー委員)

- **田中**：現在、西原さんは、沖縄のきれいな海を守るために、陸地から流れ込む赤土等を防止する活動を行っています。とくに、農地での対策として、畑の周辺にベチパー\*などの作物を植えて、降雨後に赤土等が流れ出すを防ぐグリーンベルト植栽活動に取組まれています。赤土等の流出により、沖縄の海の環境が悪化しているということをご存知の方も多いかと思いますが、西原さんがこの活動を始めたきっかけは何だったのでしょうか？  
(\*ベチパー：イネ科の植物で成長が早く種子が発芽しないため、管理も容易で雑草化の心配がない。)
- **西原**：実はこの活動は平成23年に沖縄県の水産課の事業としてスタートしました。私はNPOを立ち上げる前、漁協関係の仕事にしていたのですが、協働でサンゴを守る事業が始まると聞いて参加することになったのがきっかけでした。事業が始まる前は、海での活動だと思っていたのですが、実際は農地での活動だったので最初は戸惑いもありましたが、活動を行う中で、農地からの流出割合が86%もあることなどを知り、対策の必要性を実感するようになりました。
- **田中**：NPO法人を設立されたのはいつ頃ですか？
- **西原**：平成25年の8月です。水産課の事業期間が2年間でしたので、事業終了後もこの活動が継続してできないかと相談があり、NPO法人を立ち上げることを決めました。
- **田中**：海の世界保全といえば、沖縄の場合はサンゴ礁が頭に浮かびます。サンゴの白化現象の原因は赤土のほか、地球温暖化による海水温の上昇なども原因の一つとなっていますが、その中で、西原さんが赤土に注目した理由は何でしょうか？
- **西原**：最初は何も知らないところからのスタートでしたが、チームリーダーとして活動を行う中で、農地からの赤土等の流出防止に本気で取組まないといけないと考えようになりました。
- **田中**：NPO法人を設立されて今年で5年目、環境省の協働取組加速化事業の採択を受けて赤土等流出防止に取組むのが3年目となりますが、今までに植えたベチパーなどの本数は何本くらいになるのでしょうか？
- **西原**：環境省の協働取組加速化事業としては、これまでに農地周辺の約5キロにベチパーなどを約3万3千本植えました。また、植栽活動には地元の子供など延べ1200人に協力していただきました。ちなみに、グリーンベルト植栽を行うことで、農地からの赤土等の流出量を50%程度を軽減する効果があるとわれています。
- **田中**：ベチパーから抽出したオイル等を利用した商品の企画にも取組まれているようですが、具体的にはどんな商品を検討しているのですか？
- **西原**：現在、琉球大学と連携して、ベチパーから抽出したオイルの成分分析などを行っているところで、ベチパーのアロマオイルやマッサージオイルが製品化できないか検討しているところです。国内にもベチパーを利用した石鹸やオイルなどが流通していますが、沖縄県産のベチパーを利用したものはありませんので、ぜひグリーンベルト植栽に使われたベチパーを用いた商品ができればと思います。
- **田中**：最後に、今後の活動の抱負を教えてくださいませんか？
- **西原**：今年で、環境省の事業としては3年目になります。初年度は、やんばる地域の東村と大宜味村での協働事業としてスタートしましたが、今年度は、本部町、今帰仁村、宜野座村、恩納村、糸満市を加えた沖縄本島7市町村での取組に広がりました。沖縄県も、農地からの赤土等流出防止を推進するため、市町村単位で協議会を設立し、農業環境コーディネーターを配置するなど、対策強化を進めているので、県や協議会とも上手に連携し、農地での対策に協働で取組んでいきたいと考えています。
- **田中**：この活動が、協働取組や環境再生の範になるよう期待しています。ありがとうございました。(平成29年7月 インタビュー)



(敬称略)

# 始めよう! SDGsの推進

## SDGs (エス・ディー・ジーズ) とは

持続可能な開発目標(SDGs)とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない(leave no one behind)ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサルな目標です。

持続可能な社会を目指して  
国連の持続可能な開発目標 (SDGs)



17 パートナシップを  
目標を達成しよう

わたしたちは、パートナーシップの  
促進・ESDの推進をとおして、  
SDGsの達成を目指します!

## 熊本市とのSDGsの取組

熊本市では、熊本地震からの復興に取組むにあたり、「熊本市震災復興計画」を策定し、復興に向けた取組を進めています。そこで九州地方ESD活動支援センターでは熊本市と連携し、職員並びに復興に携わるステークホルダーへ、SDGsを普及啓発することを目的とした取組を行いました。

## 熊本市SDGs研修会

開催日 平成30年2月6日(火)  
会場 熊本市役所

SDGsの基本的な理解を獲得するため、熊本市幹部職員を対象にSDGsに関する研修を開催しました。講師に法政大学准教授 川久保俊先生をお招きし、基本的事項の確認から、SDGsを活用した自治体のまちづくりイメージまで、講演内容が共有されました。全体の研修後は、職員と有識者の意見交換の場を設け、行政施策にSDGsを取り入れる手法について検討を行いました。



研修会の様子

## くまもとSDGsセミナー

開催日 平成30年3月8日(木)  
会場 熊本市市民会館 第9会議室

SDGsに関する近年の潮流について川久保先生から講演が行われた後、「震災復興から考える2030年の熊本市」と題したワークショップを開催しました。

熊本地震からの復興に取組む中で策定された熊本市の復興計画や、これを含む総合計画をひもときながら、NPO、教育機関、自治体など、多様な参加者間で活発な意見交換が行われました。



セミナーの様子

## 参加者アンケートより

- 具体的な取組について議論できてよかった。
- 各目標が理解でき、熊本市の目指す方向性がイメージできた。
- SDGs導入の背景が分かりやすく説明されていた。
- 具体的な活動を考える難しさがわかった。
- まず身近な問題に置き換えて考えるという捉え方が発見できた。
- 熊本市の総合計画へのSDGsの活用について理解できた。

# 企業×環境保全 Green Gift 地球元気プログラム

## 東京海上日動「Green Gift 地球元気プログラム」

東京海上日動火災保険株式会社(東京都)では「Green Gift プロジェクト」の一環として、2013年度より、全国のEPO、地域の環境NPO、東京海上各支店、日本NPOセンターと連携して、国内各地で、主に子どもたちを対象とした環境保全活動に取組んでいます。2016年度からは、1地域3か年の活動として拡充され「Green Gift 地球元気プログラム」としてスタートし、熊本県・大分県・宮崎県の3県で、東京海上日動の各支店と地域の団体が連携して取組んでいます。EPO九州は企画協力として、活動広報や企画助言を行い、地域の資源やつながりを生かした活動づくりを応援しています。

\*「Green Gift 地球元気プログラム」について ▶ <http://www.tokiomarine-nichido.co.jp/world/greengift/>



## 大分県プロジェクト

## NPO法人 ABC野外教育センター

### ● 第1回 守江湾でビーチコーミング&エコクラフト

開催日 平成29年5月21日(日)  
会場 大分県杵築市

### ● 第2回 ふるさと体験村でふるさとの夏体験

開催日 平成29年7月16日(日)  
会場 大分県豊後大野市

自然豊かな「ふるさと体験村」で、竹の器と箸づくり、ソーメン流し、魚のつかみ取りなどの夏ならではの活動を行いました。はじめに、竹をのこぎりで切ったり、小刀で箸を削ったりして、親子で協力して竹の器と箸を作りました。続いて、人工プールに放流されたヤマメとウナギのつかみ取りに挑戦。つかまえた魚は炭火で焼いておいしくいただきました。一日の活動をとおして、昔懐かしいふるさとの生活体験を楽しむ学ぶ機会となりました。



NPO法人  
ABC野外教育センター  
ふじたに まさたか  
藤谷 将誉 さん



## インタビュー

### ● プログラムから広がるネットワーク

最近はプログラム対象年齢も幅広く考えています。主催事業では、活動内容に応じて一定年齢以上の参加を条件にしていますが、杵築市のプログラムでは兄弟での参加、親子での参加ができるように工夫をしています。そして長く関わってもらうことで、5年、10年単位で保護者から変化を聞いていきたいと考えています。また、東京海上日動火災大分支店さんが全面的に協力していただき、ネットワークに広がり生まれています。

### ● 今後の取組

企画はこれからですが、梅雨の前と後の開催を考えています。全国の取組からも、2時間くらいはプログラムと併せて1日ゆっくり過ごすプログラムや単発プログラムとストーリーを持った複数回プログラム展開が組合せとしてありますので、大分県内の魅力を活かせる活動にしていきたいです。また、私たちのホームグラウンドである杵築でのプログラムには、より多くの参加者を受け入れていきたいです。海も近く、雨天での対応も十分できるので安心感を持って参加してもらえと思っています。

## 熊本県プロジェクト

## NPO法人 みずのたのらBELL隊

### ● 第1回 : 木と楽しむ一日

開催日 平成29年6月10日(土)  
会場 熊本県上益城郡御船町

### ● 第2回 : Eボートで川の観察ツアーと簡単な水質調査体験

開催日 平成29年9月10日(日)  
会場 熊本県上益城郡嘉島町

開会式終了後、バドルの漕ぎ方を教わり、3艇のEボートに分かれて乗船し、川の観察や水質テストのための採水を行いました。水草の観察では、講師の方より絶滅危惧種のヒラモヤコウホネ、特定外来生物のブラジルチドメグサやナガエツルノゲイトウなど、普段見ることのできない水草を間近に見ながら説明を聞きました。水や自然環境の大切さを実感するとともに、毎日の生活の中で環境を意識するきっかけとなる一日となりました。



## 宮崎県プロジェクト

## NPO法人 大淀川流域ネットワーク

### ● 第1回 : 北川に学ぶ 洪水対策とホテル観賞

開催日 平成29年6月3日(土)  
会場 宮崎県延岡市北川町

### ● 第2回 : 大淀川の魚たちとウナギつかみ

開催日 平成29年7月22日(土)  
会場 宮崎県大淀川河川敷

事前学習では、大淀川が魚たちの大切な棲みかであることがわかりました。大淀川は上流部にオオヨシノボリ、中流部にアユカゲ、下流部に絶滅が心配されているアカメが生息しています。水辺の安全の学習と交流会では、水辺で安全に遊ぶための注意について親子で学び、後のプログラムにも活かされました。その後、天満橋下河川敷に移動して、ウナギの放流とつかみ体験。ウナギさばきの実演もあり、川の魚類に親しんだ土用ウナギの日となりました。



## 地球環境基金との連携

### ●平成30年度 地球環境基金助成金説明会 in 宮崎

「地球環境基金」は、民間団体(NGO・NPO)の環境保全活動への資金の助成や人材育成、情報提供を行っている独立行政法人の助成事業です。

- 開催日** 平成29年11月8日(水)
- 会場** みやざきNPO・協働支援センター(宮崎県宮崎市)
- 主催** 独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
- 協力** 九州地方環境パートナーシップオフィス(EPO九州)



説明会の様子

平成30年度の地球環境基金助成金公募についての説明会が、宮崎市で開催されました。説明会では、地球環境基金の担当者より、基金の設立経緯や趣旨紹介の後、平成29年度の助成実績や採択案件の傾向について紹介があり、また、「平成30年度 地球環境基金助成金」の募集については、助成メニューの説明や要望書作成のポイント、活動計画の立て方の説明や、実際の助成金要望書様式の記入例をもとにした具体的な記述内容や書き方へのアドバイスなどがありました。

参加者からは、スケジュールや助成対象経費についての質問がありました。その後、ワークシートを使って、要望書の書き方についてワークショップが行われ、団体の活動について整理することができ話し合いが必要な点が洗い出されたと、参加者に好評でした。

この「地球環境基金助成金説明会」は、九州管内で年に1回行われています。ご関心のある組織・団体の方は、お気軽にEPO九州までお尋ねください。

地球環境基金 <https://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/>

### ●第3回 全国ユース環境活動発表大会

- 開催日** 平成30年2月3日(土)・4日(日)
- 会場** 国連大学ウ・タント国際会議場
- 主催** 環境省、独立行政法人環境再生保全機構、国連大学サステナビリティ高等研究所
- 協力** 九州地方環境パートナーシップオフィス(EPO九州) 他



写真：独立行政法人環境再生保全機構 提供

地球環境基金(独)環境再生保全機構)では、高校生などのユースによるネットワーク構築を促し、交流や相互研鑽をおとして持続可能な社会の担い手を育てることを目的に全国ユース環境活動発表大会を開催し環境活動を表彰しています。日本全国から多数の高校が応募する中、九州・沖縄地区では12の高校から応募があり、地区審査の結果、佐賀県立佐賀商業高等学校が九州・沖縄地区の代表校として選出されました。

第3回大会では、全国から選出された12高校と2大学の学生が参加し、それぞれが取り組んでいる環境活動の発表が行われました。また、環境大臣賞をはじめ出場高校・大学すべてに贈賞が行われ、九州・沖縄地区の代表校である佐賀県立佐賀商業高等学校が優秀賞を受賞しました。

#### 九州・沖縄地区の応募高校12校

- 福岡県立糸島農業高等学校 根っこ部
- 佐賀県立佐賀商業高等学校 さが学美舎
- 長崎県立諫早農業高等学校 食品科学部
- 熊本県立天草拓心高等学校 マリン校舎 科学部
- 鹿児島県立薩南工業高等学校 機械工作部
- 沖縄県立中部農林高等学校 熱帯資源科動物コース
- 東筑紫学園高等学校 広谷湿原保全プロジェクト
- 大分県立玖珠美山高等学校 チームflower's
- 熊本県立岱志高等学校 理科部
- 鹿児島県立錦江湾高等学校 化学研究部
- 鹿児島県立鶴翔高等学校 作物班
- 沖縄県立南部農林高等学校 科学部

#### 九州・沖縄地区代表校

佐賀県立佐賀商業高等学校 さが学美舎(まなびや)

#### 活動名 SAGA藻わたしたちの未来

植物の数十倍のスピードで光合成をする藻類に着目し、その可能性を発展させ、同時に普及啓発することで持続可能な循環型低炭素社会の実現を目指している。



さが環境フェスタでPR



## 九州地方環境事務所からのお知らせ

### ●地球温暖化に関する九州カンファレンス



九州地方環境事務所ではCOP(気候変動枠組条約締結国会議)等の国際的な動向や、地球温暖化、防災、感染症、地域の取組等の国内の動向について、COPの交渉担当者や全国レベルで活躍されている有識者の方々等により幅広く最新情報を提供しています。以下では、平成29年度に開催したカンファレンスの内容を一部紹介します。

開催日	開催地	タイトル	情報提供の内容
平成29年 8月 4日	熊本市	第1回 カンファレンス 「持続可能な未来づくり」	気候変動対策の最新動向 (パリ協定とその後の世界の動き)等
平成29年10月22日	福岡市	公開セミナー 「気候変動による生活への影響-持続可能な未来を考える-」	気候変動・温暖化の身近な 生活への影響やその対策等
平成29年12月15日	福岡市	第2回 カンファレンス 「COP23の結果報告：国際的な動きから気候変動対策を考える」	平成29年11月にドイツで開催された COP23の結果等
平成30年 1月26日	福岡市	第3回 カンファレンス 「気候変動対策を織り込んだ地域発のビジョン」	地方自治体等における地域での 気候変動対策等



第1回 カンファレンス



公開セミナー



第2回 カンファレンス



第3回 カンファレンス

カンファレンスに関するウェブページを以下のとおり開設しています。気候変動等に関する最新情報等を随時掲載しているほか、平成30年度のカンファレンスの開催予定等も今後掲載しますので、ぜひご利用ください。

[http://kyushu.env.go.jp/earth/post\\_31.html](http://kyushu.env.go.jp/earth/post_31.html)



### ●九州地方環境事務所の災害廃棄物対策の取組

九州地方環境事務所管内では、平成28年熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨など、非常に大きな災害が発生しましたが、災害時には様々な種類の廃棄物が一度に大量に発生します。こうした災害廃棄物の処理は市町村が対応することとなりますが、適正かつ円滑・迅速な処理が求められます。

このため、九州地方環境事務所では、これら災害で被災した自治体に対して、被災時に迅速に対応すべき事項(仮置き場の設置・管理、分別の実施、県・国との連絡体制の確保等)に関する助言等の支援を行うとともに、研究機関、専門家、廃棄物処理関係団体等から構成されるD.Waste-Net(災害廃棄物処理支援ネットワーク)と連携し、初動時から復旧・復興時までの対応に係る技術的な支援を行いました。また、環境省における災害復旧制度を通じて、被災自治体の廃棄物処理費用や廃棄物処理施設復旧事業費の支援も行っております。

